新聞摘要

ニュース記事から（2022年6月1日～2022年11月30日）

有关遗华日本人等、中国・库页岛归国者的新闻

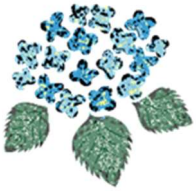
中国残留邦人等、中国･サハリン帰国者関連のニュース

2022 年 6 月 8 日（周三）

由日中两国摄影家共同举办的“永远的邻居——纪念中日邦交正常化 50 周年摄影展”8 日（至 12 日）在北京开幕。它原定于 5 月初举行，但由于该市新冠病毒感染蔓延而被推迟。会场内展示了约 200 张照片，其中包括遗华日本孤儿访日的情景。

6 月 15 日（周三）

九州地区中国归国者第 2 代联络会向国会提交了一份请愿书，要求将《老龄基础年金》(养老金)的全部或一部分也支付给其 2 代。但未获得通过，6 月 15 日定期国会闭会。2 代们将继续着力于征集签名和调查生活实际状况，以便重新申请。根据该联络会 2 月份公布的全国归国者第 2 代问卷调查结果显示，在提交答卷的约 300 人当中，60%的人回答“领取过生活保护金”，超过 80%的人回答“完全没有养老积蓄”。



7 月 13 日（周三）

13 日，5 名中国归国者代表和 2 名支援律师在厚生劳动省大臣办公室拜访了厚生劳动大臣后藤茂之，并交换了意见。此次会见起始于 2007 年 7 月当时的执政党项目小组针对遗华日本人制定的新支援措施。但由于受新冠病毒蔓延的影响，今年只有五名家住东京的归国

2022 年 6 月 8 日（水）

日中両国の写真家による「永遠の隣人―中日国交正常化50周年記念写真展」が8日、北京市内で開幕した（～12 日）。5月初旬に開催予定だったが、同市の新型コロナウィルス感染拡大により延期となっていた。会場には中国残留孤児たちの訪日の様子なども含む約200点の写真が展示された。

6 月 15 日（水）

九州地区中国帰国者２世連絡会などが、老齢年金の全額または一部を 2 世にも支給するよう求める請願を国会に提出していたが、採択されずに 6 月 15 日、通常国会が閉会した。2 世らは請願の再申請に向けて、署名活動や生活実態調査に力を入れていく。同連絡会が 2 月に公表した全国の 2 世帰国者を対象とするアンケート調査結果によると、回答を寄せた約 300 人のうち 6 割が「生活保護の受給を経験」、8 割以上が「老後の蓄えが全くない」と答えている。

7 月 13 日（水）

中国帰国者の代表５名と支援弁護士２名が 13 日、厚生労働省大臣室で後藤茂之厚生労働大臣と面会し、意見交換を行った。この面会は、2007 年 7 月に当時の与党プロジェクトチームが中国残留邦人に対する新支援策を取りまとめたことをきっかけに行っている。今年は新型コロナ感染拡大の影響から、参加した帰国者は東京在住の５人にとどまった。

者参加了本次活动。

7 月 16 日（周六）

16 日，在札幌市举行了“理解中国・库页岛归国者的集会”,约有 70 人参加了此次活动。家住东京的“战后世代的讲述人”熊谷圭子女士讲述了一位遗华日本妇女的经历。这位妇女作为满蒙开拓团的一员前往满洲，在战争结束后约 40 年间都没能实现回国的愿望。熊谷女士介绍了这位妇女在中国结婚生活的艰难困苦，以及因有了孩子而无法下定决心回到日本的缘故。

在活动后半部分播放了一段对居住在北海道的 3 位归国者的采访视频。他们讲述了各种经历和感受，比如在医院看病时因语言不通而遭遇的困难，为不得不舍弃中国的生活根基而苦恼等等。

8 月 29 日（周一）

29 日，长野县泰阜村泰阜中学和长野市七二会中学共 13 名 3 年级学生举行了一次线上学习交流会，以加深对开拓满洲历史的了解。组织这项活动是为了 9 月份准备去阿智村的满蒙开拓和平纪念馆参观，在此之前，让学生们互相发表一下各自的学习收获，分享各自的学习与感受。

9 月 10 日（周六）

战争临近结束时，作为东京农业大学生前往旧满洲进行农业实习的小川政胜先生（94 岁，居住在东京）于 10 日在母校做了演讲。他讲述了 6 成同学在逃亡中忍饥挨饿最终丧生的情况下自己好歹活下来的经历。

出生于新泻县的小川先生，1945 年 16 岁的时候考入该校专业部农垦科，同年 6 月被派往该校“满洲报国农场”。它位于旧满洲东安省

7 月 16 日（土）

「中国・樺太帰国者を知る集い」が札幌市で 16 日に開かれ、約 70 人がこのイベントに参加した。東京在住の「戦後世代の語り部」熊谷圭子さんが、ある中国残留婦人の体験を語った。その婦人は満蒙開拓団として満洲に渡り、終戦後も帰国が約 40年間かなわなかった。熊谷さんは、この女性の中国での結婚生活の苦労や、子をもうけていたため日本への帰国に踏み切れなかった事情などを紹介した。

イベントの後半では、道内在住の３人の帰国者のインタビュー映像が上映され、病院で言葉が通じず困ったことや、中国の生活基盤を捨てなければならなかった苦悩など、さまざまな体験や思いが語られた。

8 月 29 日（月）

満蒙開拓の歴史について理解を深めようと、長野県泰阜村泰阜中学校と長野市七二会中学校の 3年生計13 人が 29 日、オンライン学習交流会を開いた。9 月には阿智村の満蒙開拓平和記念館を訪問する予定で、それに先立ち生徒同士がそれぞれに学習してきたことを発表し合い、学びや思いを共有しようと企画したもの。

9 月 10 日（土）

（现中国黑龙江省）临近旧苏联边境的地方，可仅仅两个月便迎来了战败。他还讲到在逃难途中是靠啃生玉米、嚼青草充饥才活下来的。

9 月 19 日（周一・节日）

19 日，歌手加藤登纪子在北海道东川町举行了一场音乐会，邀请了一位遭受俄罗斯入侵从乌克兰避难到旭川市的库页岛遗留日本人，名叫降籏英捷（78 岁）。当加藤歌手对他说“你有三个故乡啊，日本、乌克兰和库页岛”时，降籏先生用他正在学习中的日语说“日本是我的祖国”。

加藤歌手出生于前满洲的哈尔滨，在京都长大。80 年代曾在中国举办音乐会，与遗华日本孤儿一道用中文演唱过《知床旅情》。

9 月 23 日（周五・节日）

23 日，在奈良市举办了由“NPO 市民广场・奈良小草"主办的成人学习讲座“思考遗华(日本人)问题”，约有 35 名市民参加。这个讲座是以和平与人权为主题定期举办的。这一天，遗华日本孤儿第 2 代伊藤光子女士介绍了自己的母亲在太平洋战争末期的中国与父母失散的经历。她说“虽然战后 77 年过去了，但仍有许多人被那悲惨的回忆困扰，难以与人进行普通的会话交流。希望人们能够加深对遗华日本孤儿的理解，对战争做一番思考”。

9 月 24 日（周六）

据《每日新闻》今年 7-8 月针对中国归国者第 3 代的问卷调查结果显示，超过半数以上的回答者回答“有过不敢说出或不愿意让人知道自己的根是在中国的经历”，从中显露出他们在如何面对自

終戦間際に東京農業大学生として農業実習のため旧満州へ渡った小川正勝さん（94、東京都在住）が同大学で10日講演した。逃避行で飢えに苦しみ、同級生の6割が亡くなる中、ようやく生還した体験を語った。

新潟県出身の小川さんは 1945 年、16 歳で同大学専門部農業拓殖科に入学後、同年６月に旧満州東安省（現中国黒竜江省）の旧ソ連国境近くにあった同大「満洲報国農場」に送られたが、わずか 2 か月後に敗戦を迎えることとなった。避難の途中、生のトウモロコシや草をかじるなどして命を繋いだこともあったという。

9 月 19 日（月・祝）

19 日、歌手の加藤登紀子さんが北海道東川町で開いたコンサートに、ロシア軍侵攻を受けウクライナから旭川市に避難した樺太残留邦人、降籏英捷さん（78）が招かれた。加藤さんが「日本とウクライナ、サハリンの三つの故郷がありますね」と語りかけると、降籏さんは「日本は私の祖国です」と勉強中の日本語で応じた。

加藤さんは旧満州ハルピン生まれの、京都育ち。1980年代に中国でコンサートを行い、中国残留孤児と中国語で「知床旅情」を歌ったことがある。

9 月 23 日（金・祝）

「ＮＰＯ法人市民ひろば　なら小草」主催の大人の学び講座「中国残留を考える」が 23 日に奈良市で開かれ、市民ら約 35 人が参加した。この講座は、平和や人権をめぐる問題をテーマとして定期的に開催されている。この日は残留孤児２世の伊藤光子さんが太平洋戦争末期の中国で親と生き別れた母親の体験を紹介し、「戦後 77 年を経て

己中国根的问题上忧虑重重这一现状。超过 4 成的回答者表示他们从未直接从第 1 代那里听说过当时的经历，并其中 8 成的人回答说“很想知道”。此外，还有近 4 成的回答者表示“由于周围人的不理解，有感到过活着难受。”

9 月 27 日（周二）

7 月，日本前首相安倍晋三在奈良进行参议院选的声援演讲时被枪击身亡。9 月 27 日，在东京日本武道馆为他举行了国葬，共有 4183 名国内外人士出席了仪式，25889 人来到设立在会场附近的面向一般市民的鲜花台表示了哀悼。

在有关遗华日本人的问题上，安倍前首相于 2007 年会见了提起“国家赔偿诉讼”的原告团成员，并指示厚生劳动大臣制定“新的支援措施”。同年 11 月 28 日，在执政党和在野党多数议员的支持下，日本国会通过了“遗华日本人等支援法修正案”，它包括①全额支付老龄基础年金、②提供支援补助金、③实施区域扶持。

10 月 23 日（周日）

广岛县世罗郡文化财协会和由世罗町等旧满洲（中国东北部）开拓者的子女们组成的“满洲世罗金马 2 代会”制作了一部名叫《満洲開拓あの時》（满洲开拓那时代）的册子，它连同 23 日的追悼会一并发行出版了。册子里收集了 14 人的证词，其中有与旧满洲“第二世罗村”的相关人员，当时这个村落出现了在战后的混乱中被迫自杀的人，也有曾被扣留在西伯利亚的人。还收入了从遗华日本孤儿及其家人那里听到的一些经历。

11 月 11 日（周五）

も当たり前の会話ができず、悲惨な記憶にさいなまれる人も多い。残留孤児への理解を深め、戦争について考えてもらえれば」と語った。

9 月 24 日（土）

毎日新聞が中国帰国者３世を対象に今年７～８月にかけて行ったアンケート調査結果によると、半数以上が「中国にルーツがあることを、話せなかったり隠したりした経験がある」と回答し、自分のルーツとの向き合い方に葛藤を抱えている現状が浮かび上がった。１世から直接、当時の体験を聞いたことがない割合は４割を超えたが、このうち「知りたい」と答えた人は８割に上った。また、４割近くが「周囲の無理解などで生きづらさを感じた」ことがあるという。

9 月 27 日（火）

７月、奈良で参議院選挙の応援演説中に狙撃されて死亡した安倍晋三元首相の国葬が9月27日、東京の日本武道館で執り行われた。国内外から 4,183 人が参列し、会場近くの一般向け献花台には２万5,889 人が弔問に訪れた。

中国残留邦人との関連では、安倍元首相は 2007 年に「国家賠償訴訟」を行っていた原告団と面会し、「新たな支援策」の策定を厚生労働大臣に指示した。そして「①老齢基礎年金の満額支給、②支援給付の支給、③地域支援事業の実施」を盛り込んだ「改正中国残留邦人等支援法」が同年11月28日、与野党の議員立法により成立した。

10 月 23 日（日）

広島県の世羅郡文化財協会と世羅町などの旧満洲（中国東北部）入植者の子どもたちでつくる「満州世羅金馬二世の会」が、『満洲開拓あの時』を制作し、23 日の慰霊祭に合わせて発刊した。

降簇英捷先生是遗留在库页岛的日本人，为躲避乌克兰的战火，于今年 3 月来到日本，现在住在北海道旭川市，最近获得了日本国籍。当他一开始避难时，他曾计划最终返回乌克兰，但他与兄弟姐妹一起生活在日本的愿望越来越强烈，所以他申请了日本国籍。

11 月 19 日（周日）

《加深对遗华日本人等的理解的集会》在新泻市举行（主办单位：首都圈中国归国者支援・交流中心），居住在新泻县等地方的约 60 人参加了这次活动。两位讲述人各各讲述了一位作为"满洲柏崎村"开拓团成员前往满洲，战后与丈夫生离死别，成为遗华妇女的女性的人生苦恼，以及一位遗华孤儿回到日本后遭受语言和文化障碍的经历。

終戦の混乱で自決者も出た旧満洲の「第二世羅村」の関係者や、シベリア抑留経験者ら 14 人による証言集である。その中には、中国残留孤児やその家族から聞き取った体験も収められている。

11 月 11 日（金）

ウクライナの戦火を逃れて今年３月に来日し、現在は北海道・旭川に住む樺太残留邦人の降簇英捷さんは、このほど日本国籍が認められた。当初はいずれウクライナに戻るつもりだったが、きょうだいたちと日本で暮らしたいという思いが次第に強まり、日本国籍の手続きを行ったという。

11 月 19 日（日）

首都圏中国帰国者支援・交流センター主催の「中国残留邦人等への理解を深める集い」が 19 日、新潟市内で開かれ、新潟県民など約 60 人が参加した。「満洲柏崎村」開拓団として満洲に渡り、戦後夫と生き別れ残留婦人となった女性の苦悩、帰国後も言葉や文化の壁に苦しんだ残留孤児の経験がそれぞれ二人の語り手によって語られた。

◆请注意：本栏目的新闻为见诸报端的报道摘要，并非政府正式公布的内容，其中一部分还包含媒体的观察消息。

◆ご注意：本欄の内容は、一般の新聞などで報道された内容を中心に要約して掲載しています。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれています。